

令和5年度 徳島県ふるさと・水と土保全対策懇話会 会議録

1 日 時 令和6年3月21日(木) 13時30分から14時50分まで

2 場 所 徳島市 ホテル千秋閣

3 出席者

【委員】花本委員、田中委員、板東委員、上家委員、尾崎委員、藤本委員
(欠席：富浦委員)

【県】 農山漁村振興課長、振興・創生担当3名

4 懇話会次第

1)あいさつ

2)自己紹介

3)協議内容

①ふるさと水と土保全対策及び棚田地域等保全対策の概要について

②令和5年度の事業経過について

③令和6年度の事業計画について

④意見交換

⑤その他

5 会議録(事務局説明の後、花本委員の進行による意見交換の内容を記録)

委員 「令和6年度から実施する「とくしま『デジ活』農山漁村づくり推進事業」の概要について教えて欲しい。」

県 「本事業は、ICTの活用によるスマート農林水産業の導入推進、農業水利施設等の管理の省力化・高度化等により農山漁村のイノベーションを図り、社会課題解決を目指す地域「とくしま『デジ活』農山漁村(むら)」の実現に向けた取組を支援する。県内におけるパイロット地域の育成や、農業の持続的な発展、農村の振興を図るもので、令和6年度、中山間地域でのスマート農業を進めるため、県内で1地区モデル地区をつくる。今後、事業の公募を行い、選定委員会にかけ、候補地を決定していきたい。事業費は、1,500万円の予定。」

委員 「徳島発!輝くむらのたから展開事業」は9地域で認定されているが、ほかの地域へも広げてはどうか。」

県 「9地区以外でも、伝統行事やお祭りなど各地域にはきらりと輝く魅力がある。と

くしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業では、企業や大学などと一緒に各地域の伝統行事や農作業などのお手伝いをしている。応援し隊事業は、業者にSNSの発信なども含めて委託しているが、業者にSNSの投稿をしっかりとサポートしていただき、地域の魅力発信をもっともっと進めていきたい。」

委員 「ふるさと水と土指導員は、14市町村で39名の方が活躍している。ふるさと水と土指導員活動支援事業を活用していない方もいる。今後、指導員にどのように本事業を活用してもらうのか。また、指導員がいない地域を含めどのように人数を増やしていくのか。」

県 「本事業は、基金を活用したものであり用途が限られている。また、実施できる地域が中山間地域や棚田地域に限られており、全ての市町村で事業をできるものでない。今年度は、指導員候補者の方と一緒に取組む場合や、指導員が連携して取組む場合を事業の対象とし、次世代の指導員の育成や、取組の広域化などにもしっかりと支援することになっている。

地域住民を対象としたワークショップや市町村担当者を対象とした説明会などで、周知を行っている。若い指導員も増やしていきたい。」

委員 「Instagramを活用している指導員もいるので、実施している事業を定期的に投稿してもらうよう依頼してはどうか。」

委員 「指導員を対象とした研修会において、このような取組でも県が支援してくれるんだとわかってもらうような、研修内容にしてはどうか。」

県 「地域づくりに関わっている人や市町村職員で、本事業を知らない人がいるので、今後とも、県としてしっかりと周知していきたい。また、指導員もSNSで発信することが重要であることから、情報発信を働きかけていくことにより、指導員を増やし、活動を活発化させたい。また、若い方にも参加いただきたい。」

委員 「皆さんに知っていただくことは難しい。チラシを配布しても問い合わせがないこともある。若い方はSNSを使っている方が多い。情報を求めている人に上手く伝わるような仕組みを考える必要がある。市町村の広報に掲載してはどうか。」

県 「いろいろな媒体で周知を行い、情報が必要な方の目にとまりやすいよう広報を行っていきたい。」

委員

令和6年度から新たに実施する、とくしま「デジ活」農山漁村づくり推進事業の概要について教えて欲しい。

県

本事業は、ICTの活用によるスマート農林水産業の導入推進、農業水利施設等の管理の省力化・高度化等による農山漁村のイノベーションを図り、社会課題解決を目指す地域「とくしま『デジ活』農山漁村（むら）」の実現に向けた取組を支援することにより、県内におけるパイロット地域の育成や、農業の持続的な発展、農村の振興を図るもので、県としてもしっかりと事業を推進していくことにしている。

令和6年度、中山間地域でスマート農業を進めるため、県内で1つモデル地区をつくりことにしている。候補地については、世界農業遺産の地域や県南部の中山間地域の中でモデル地区づくりができたかと考えている。今後、公募をし、地域の方にデジ活活用のアイデアを出していただき、業者や企業と連携し、実証できるように考えている。全体事業は1,500万円となっている。現在仕様書を作成しており、来年度なるべく早い時期に公募を行いたい。

委員

世界農業遺産の地域といていたが、美馬市が候補地となっているのか。

県

候補地として手を上げていただきたいが、公募事業としてホームページに出し、皆さまから、アイデアをいただきたい。そのアイデアをプロポーザル方式で提案をプレゼンしていただいて、その上で選定委員会にかけ、候補地を決定していきたい。

委員

スマート農業とはどのようなものか。

県

スマート農業の例として、国の方の事業を使い、鳥獣害対策として監視カメラや、田畑の給水栓の自動化を進めている地域がある。

委員

ふるさと水と土指導員事業について、14市町村で39名の方が活躍していると聞いている。県内には24市町村があり、指導員がいない地域があるが、今後、どのように増やすのか。ふるさと水と土活動支援事業は、16名の方が実施しているが、ほかの方は実施していない。これは、使い勝手が悪い所があるのかなとも思うがどうか。皆さんの意見を聞いてもう少し使い勝手が良いものにできないか。拡大していけないのか。いけないのならどんな課題があるのか。

徳島発！輝くむらのたから展開事業について、それぞれの地域でできればいいと思うが、

委員

ふる水指導員は以前50名いたが、高齢者になり、やめていく人があり、今は39名になっている。

県

指導員の活動支援事業、幅広い方に使っていただきたいと思っている。基金の使途が限られている。また、地域が、棚田地域や中山間地域と限られており、全ての市町村でできるものではない。対象となっている地域で、ふる水指導員がいない地域もあるので、しっかりとPRをしていきたい。

高齢化により、やめる人がおり、人数が減ってきているが、今年度から実施しているふる水指導員育成支援事業を新設し、候補者の方と一緒に取り組んでいるが、この事業を通じて、ふる水指導員になっていただいた方もいる。ふる水指導員がどういうものか、若い方に体験いただき、地域の取組を引き継いいただいたり、代替わりだったり、活動の輪を広げていただきたい、ということで、この事業を創設した。

5年度からは、ほかに連携支援事業で、指導員さんが連携して行う事業も創設した。いまの指導員さんの活動、次世代の指導員さんの育成、取組の広域化などもしっかりと支援してまいりたい。

指導員がいない地域を含め、チラシなどによりふる水指導員のPRをしている。応援し隊事業や多面的支払事業、交付金の説明会などでしっかりと活用をお願いしますなどの説明やお願いをしている。令和6年度も引き続き、PRしていくつもりである。若い方なども増やしていきたい。

ふる水の活動支援事業の使い勝手はどうか。

委員

候補者の一緒にするのは今年初めての事業であった。指導員連携事業については、お互い忙しいのでなかなかできないなどの話であった。育成の方は、フリースクールの子供達と一緒にやっている。

Instagramの連携は、ハッシュタグキャンペーンなどやっているが、知名度をあげることはなかなか難しいので、月何回かは投稿して、この事業はふる水指導員がしている事業なんだとわかるよう、ハッシュタグをつけて投稿してもらおうなどしてはどうか。

県

むらの宝展開事業、ほかの地域でもきらりと輝ものがあるので、それを拾い上げてPR、広げていけばはどうかとの意見をいただいた。現在9地域であるが、それを広げようという動きはないが、地域の魅力をSNSで発信できたらということで、SNSの活用を大々的に進めていきたいなど。伝統行事や景観、また、ふるさと応援し隊事業でいろんな地域のお祭りなどのお手伝いをしていますが、応援し隊事業の委託事業の中で、SNSを活用するようしており、専門的な業者にSNSの投稿をしっかりとサポートしていただき、地域の魅力発信をもっともっと進めていこうと考えている。むらのたから以上の情報をもと発信していきたい。

委員

ふる水指導員は、地域に対し熱意を持って取り組んで頂いているので、全国研修会や県内の研修会において、このようなことでも県は支援してくれるんだと、みんなが知らないかも知れないという観点でひろげていくのはどうか。

県

PR不足を感じている。市町村の方でこの事業を知らない方もいる。農林水産部の方や地域づくりに関わっている方で知らない方もいる。市町村の推薦をもらいに行ったときにこんな制度があるんだという方もおいでる。しっかりと広めていく、指導員等がSNSで発信することもすごく重要なと考える。情報を口コミで広げる時代となっているので、指導員さんも情報発信頂けるような取組をしていただけるよう、働きかけて生きたい。市町村の方にも知って頂き、協力頂けるよう取り組みたい。しっかりと周知を図り、ふる水指導員を増やし、活動を活発にしたい。若返りにも取り組みたい。

委員

役場の方から、指導員をやりませんかといってもらえればと思う。

委員

指導員を知らなかった。ちらしも見たことがなかった。広報をしたら参加する人もいる。広報は難しい。

県

広報の工夫をしたい。

委員

地域協力隊の方で、この事業に興味がある人がいる。

県

こういう事業に使えないか、との意見があれば教えて欲しい。反映できるか検討したい。コロナの影響で減っていたが、通常に戻りつつある。県もお手伝いできることもある、

委員

みなさんに知って頂くことは難しい。チラシを配っても問合せがないという状況もある。若い方は、SNSの媒体を使っている方が多い、執行はどうなっているのか。上手く情報が伝わらず未執行で残っているのかなと感じる。情報を求めている人にうまく伝わるような仕組みを考えていかないとと思う。あらゆる機会を通じ情報発信する必要がある。フリーペーパーなども活用してはどうか。指導員の活動の紹介とか、啓発を広げたら、事業も認知されるのではないか。市町村の広報で、こういう事業をしていると広報を頼んでみたらどうか。

県

応援し隊では、タウトクに掲載した。

県

市町村の広報誌に載せるのはどうか。

委員

こういう事業があると知らせるのがいいと思う。

町の方にも知らせるのがいいと思う。

広報誌はいいと思う。目にとまるかもわからない。

県

いろんな取組をしたい。広報媒体は大事と思い、目にとまりやすいよう広報したい。

委員

市町村にはいろんな団体から広報して欲しいと言ってきている。